

歩み始めた研究支援委員会

研究支援委員会委員長 保正 友子(日本福祉大学)



1. 研究支援委員会の沿革

2017年度に仮設「若手・女性研究者に対する支援検討委員会」が学会内で創設され、その年度に『若手・女性研究者の研究・生活の現状と研究促進に向けた課題—若手・女性会員の支援のあり方に関するアンケート調査報告書—』を発行しました。翌2018年度には常設の「若手・女性研究者に対する支援検討委員会」になり、2020年度より「研究支援委員会」に名称変更されました。

委員会の目的は「研究歴の短い会員・女性会員等のニーズを把握し、支援策を検討、実行することを通して、その研究活動を支援すること」であり、現在、スタートアップ・シンポジウムの企画、若手研究者のネットワークであるCS-NETの立ち上げ準備、初期研究者のニーズ調査を実施しており、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(ギース)の活動にも参画しています。以下、具体的な活動内容をご紹介します。

2. スタートアップ・シンポジウム

第69回秋季大会では、3人のシンポジストとコメンテーターの小林良二先生をお迎えして、9月11日(土)10時~13時にスタートアップ・シンポジウム「研究テーマの育て方について考える」を開催予定です。研究者として「研究テーマ」をどのように追究していくか、自分自身が大切にしている「研究テーマ」をどのように深めていくか、それは研究を始めた大学院生や若手研究者にとっては大変大きな課題であり、また興味関心が大きいテーマだと思われます。本シンポジウムでは、とくに研究の初期段階にある方々の研究テーマの育て方に焦点をあて、若手研究者をとりまく状況をふまえて、研究の進め方について考えていく予定です。関心のある方は、ぜひご参加ください。

3. CS-NETの活動

他学会では、すでに若手研究者のネットワークが活発に活動をしています。そのため、本学会でも若手の柔軟な発想とエネルギーを発揮して学会を盛り上げるべく、若手ネットワークCS-NET(CREATION SUPPORT NETWORK)の立ち上げ準備を進めています。CS-NETはSNSを活用して学会企画、サロン企画、若手ネット企画を開催し、社会福祉の魅力を相互に話し合える支援の在り方を目指します。その先駆けとして、学会ホームページ上に若手研究者のリレーエッセイの掲載が始まりました。今のところCS-NETは秋から冬にかけてスタート予定であり、今後、会員の皆様には状況をお知らせしていきます。

4. 初期研究者のニーズ調査

現在、初期研究者の研究支援についてのニーズ調査を実施しています。2021年度は8人の方へのインタビュー調査を終えました。この結果の分析を進めるとともに、2022年度にはアンケート調査を実施し、初期研究者のニーズを明らかにしていきます。会員の皆様には、調査に御協力いただくこともあるかと思っておりますので、その節にはよろしく申し上げます。なお、調査結果は、後日公開予定です。

5. 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（ギース）の活動

2017年5月21日に発足した「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences (GEAHSS略称ギース)は、人文社会科学分野での若手・女性研究者支援とともに、研究分野を超えた連携のもとで人文社会系の学術の発展を目指していく組織です。ギースでは、①学協会におけるジェンダー平等に関するグッド・プラクティス(好事例)の共有、②学協会におけるジェンダー統計に関する調査・公表・分析、③年1回程度のシンポジウムの開催、を行っています。本学会もギースに参画しています。

このように、まだ歩み始めたばかりの委員会ではありますが、会員の皆様の研究支援にむけた活動を旺盛に展開していきたいと考えていますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。